

地域のトピックス

民間提案制度の募集開始
(旧東村小・旧内海中)



田尻高島交流館



駅前府中線

オンデマンド乗合タクシー
(郷分・赤坂・本郷)



高齢者おでかけ支援事業
(常石・走島・田島・
熊野・山南・藤江・東村)



宮澤喜一記念館



竹ヶ端運動公園庭球場



③松永地域
のまちづくり
「松永駅周辺活性化
協議会の取組」

④交通インフラ
の整備
「今津高西線
事業化の取組」



①鞆町への施策の
取組状況
「鞆未来トンネルと
交通交流拠点の整備」

②南部地域の振興
「アリストぬまくまの再整備」

① 鞆町への施策の取組状況

～ 鞆未来トンネルと交通・交流拠点の整備～

○ 県事業

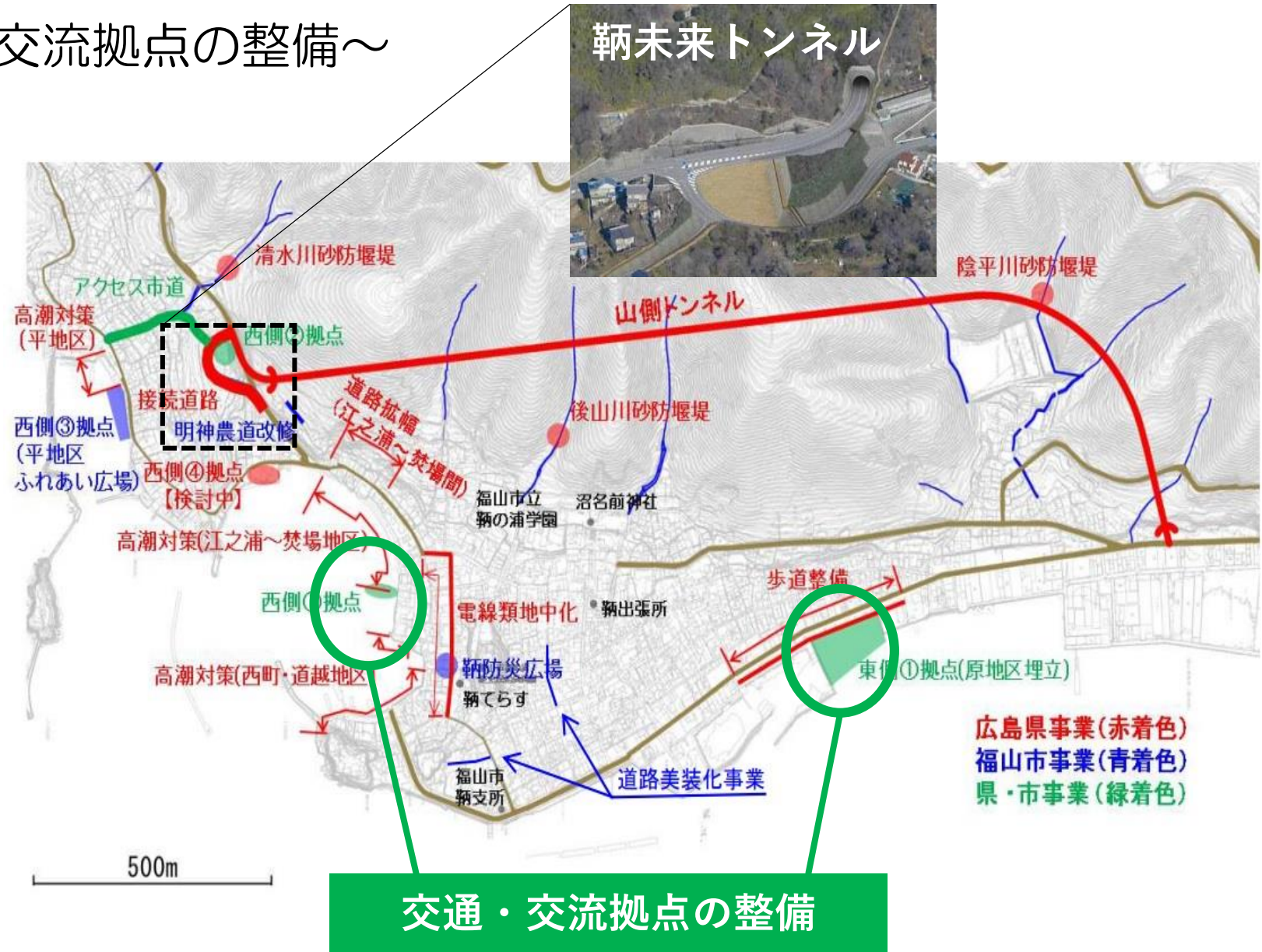
- ✓ 2021年度（令和3年度）から工事が進められてきた鞆未来トンネルが来年3月末に完成・開通の予定
- ✓ 高潮対策として、大雁木区間の起伏式ゲートが整備され、江之浦から焚場区間の整備に一部着手

○ 県・市事業

- ✓ 平地区バイパスアクセス道路や原地区の交通・交流拠点、市営渡船発着場の整備が進められている

○ 市事業

- ✓ 平地区ふれあい広場や防災広場整備、道路再美装化の取組
- ✓ ナショナルサイクルルートへの指定を目指し、官民協働による（仮称）鞆しおまち海道サイクリングロード振興協議会を設置予定



②南部地域の振興

～道の駅アリストぬまくまの再整備～

○ 現在の姿

- ✓ 1996年（平成8年）本市唯一の道の駅として南部地域の拠点の役割を果たしてきた
- ✓ 建設から約30年を経過し、施設が老朽化している
- ✓ 靱未来トンネル開通に伴い、靱・沼隈地域の観光振興を本格化させるうえで駐車場の不足が懸念されている
- ✓ 全国的に道の駅のあり方が議論され、地方創生と観光を加速する拠点となることが期待されている

関係団体や有識者による懇談会が設置され、現在、再整備に向けた意見交換が行われている

○ 再整備のスケジュール

2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	2027年度 (令和9年度)	2028年度 (令和10年度)
基本構想策定				
	基本設計			
		実施設計		
			建設工事	

※2029年度（令和11年度）リニューアルオープン予定



○ 未来の姿

「福山市の旬を見て、食べて、楽しむ
地元の人・観光客が集まる賑わい・交流の場所」



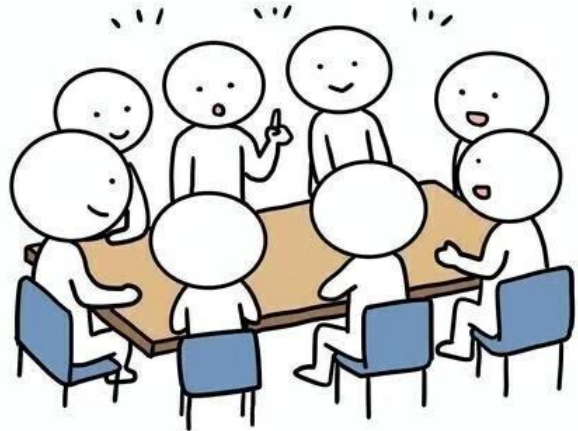
③松永地域のまちづくり ～松永駅周辺活性化協議会の取組～

現在

- ✓ 駅の南北を含めた松永駅周辺の空洞化が顕著である
- ✓ 大学生や外国人市民といった地域の人財が活かされていない
- ✓ ゲタリンピックが終了する一方で、地域経済の活性化が必要であり、松永地域全体の活力を向上させる新たな取組が求められている



松永地域全体の活性化を図るうえで、まずは駅周辺のにぎわい創出に取り組むことが有効である



松永駅周辺活性化協議会

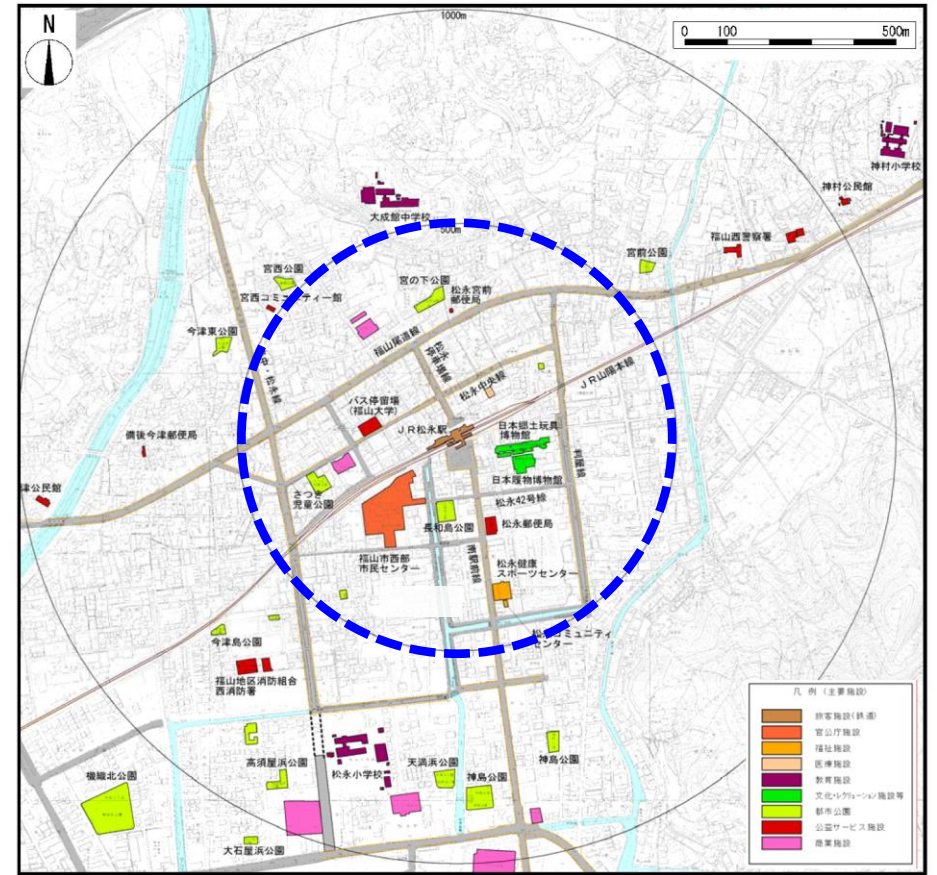


松永未来会議

現在、福山駅前再生の取組を参考にしながら、官民が共有できるビジョンの策定に向けて議論が行われています

今年度末までに「まちの未来の姿（ビジョン）」の策定予定

駅周辺とは 徒歩7分程度の範囲



これまでの取組状況

第1回松永駅周辺活性化協議会(4回程度)

8月8日、11月1日

第1回松永未来会議（ミーティング・ワークショップ）

9月30日、10月13日、11月8日

その他、松永駅周辺のにぎわい再生シンポジウム（12月16日）や社会実験等も実施予定

④交通インフラの整備 ～今津高西線新規事業化の取組～

- ✓ 今津高西線は、松永地区西部において、松永湾から南今津町、松永道路を經由して、山陽自動車道につながる主要路線
- ✓ 路線延長670mのうち、JR山陽本線を挟んで220mが未整備であるため路線未開通となっており、市街地の分断が生じている
- ✓ 今津高西線の全面開通を目指して、アンダーパスを整備し、JR山陽本線との立体交差化を行うこととしており、整備に必要な補助金交付に向け、事業認可に向けた手続きのための補正予算を9月定例会で可決した
- ✓ この事業の実施効果として、JR山陽本線を挟んで分断されている市街地の一体化が進むとともに、交通の円滑化と通行の安全性確保が図られることが期待される

